平成 22 年 2月 1 日
第 33 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

## 土砂の流出をどう防ぐ



1月24日、現地で状況を検討する。右側に立っている場所は掻き上げた土砂でできた小山

河川から汲み上げた農業用水を送水するパイプが横土手の法面に建設されていますが、その下側の斜面の土砂の流出が止まりません。

関係する農地管理者が排水路に溜まった土砂をその都度掻き上げていますが、その土砂が小山になっています。

このままだと送水管を支えている基礎部分にも影響が出るのではという懸念もあります。

「八方原の環境を守る会」では少しでも流出の進行を抑えるために、効果的な方法を模索しています。ブロックで抑えてしまう方法もあるでしょうし、法面の土壌そのものを強化する方法もあるかもしれません。

## 消防防災体制の再編か

1月10日の午後、小郡地区の私設消防組と市消防団小郡方面隊の出初め式と訓練が行われました。八方原消防組も堂々の行進で消防防災の一翼を担う心意気を示しました。

則松本部団長は訓示で市消防本部の改編計画に賛成できないと言葉を極めて訴えました。

その後の各所の情報を総合するとおおよそ次のような計画が示されているようです。「消防の出動体制を整理するため、現在4分団ある小郡方面隊は3分団とし、各小学校校区ごとに配備する。各分団にポンプ車を一台ずつ配備し、余剰の車両は常備消防が活用する。」つまりかって全国のその名を轟かせた「小郡消防団」は市内の他地域の消防団と同じ扱いになり、優れた機器、充分な訓練で県内の消防団の垂涎の的、出動は素早く、殆どの場合南消防署よりも早く到着するなど、消火作業の主力を自負する立場からすれば納得できないということです。



入場する八方原消防組

一方消防組は市内の他の地区にはない体制です。八方原消防組は昨年の豪雨被害の復旧に活躍しています。また年間を通じて防災のための土嚢づくりや消火設備の点検など続けています。

旧町地区の自治会代表もこの方針に反対しているようですが、結論はまだのようです。しっかりと話し合って良い方法を見つけ出したいものです。

# 八方原の雪景色

暖冬だろうと予測された今年の冬、しかしなかなかどうして寒い日が続きます。昨年暮れの大晦日の朝も地区内はうっすらと雪に覆われました。

雪景色はいつも見慣れた風景を別のものに塗り替えてしまいます。この日の雪は小郡地域でも西側の方が多かったようです。何はともあれ、温かい春が待ち遠しいですね。



小雪まじりの北西風が吹き付ける（12月31日早朝）

## バス利用者にお知らせ

八方原地区内の市道を走る定期バスが、期間を区切って県道沿い従来の停留所経由となり、地区内に乗り入れをしないことになりました。

これは地区内の水道配水管工事に共なうもので、2月3日から3月26日の間は地区内停留所の利用はできませんのでご注意ください。回覧板もご覧下さい。

# 今年の朝市もスタート

毎週土曜日の朝市が今年も始まりました。1月9日の夜明け前から、続々と人々が駆けつけ、たき火を囲んでの団らんが始まりました。

お客さんの方が先に来てたき火を焚いて準備を始める独特のスタイルは今年も健在のようです。寒いこの時期こそ、たき火の温かさが嬉しいですね。



たき火の周りには笑い声と笑顔がいっぱい

# 区からのお知らせ（八方原区長）

## 新年会へのご参加・ご協力に感謝

八方原区の新年会を1月10日に区民64名の参加で盛大に行うことができました。ご多用中のところをご参加いただき誠にありがとうございました。またお世話の役目をお願いしました各班の班長さん、ご苦労様でした。

みなさまのおかげで楽しい、有意義な新年のひとときを明るい気持ちで過ごすことができました。

また、この新年会開催に際して関係各位から過分なお祝いを頂きました。あらためて御礼申し上げます。



日頃顔を合わさない人々とも楽しい語らいの時間

## 火災報知器の設置　区長協議会から

1月24日の日曜日、小郡地域交流センターで区長協議会の勉強会が開催されました。

2月から新たに「おごおり地域づくり協議会」が発足することが決まり、区長協議会も組織の一員として、中心的な活動をすることを確認しました。

行政からはゴミ出しのルールの徹底、新たな資源ゴミ収集保管用容器についてなどの説明がありました。

消防本部から火災報知器の設置について説明がありました。平成23年6月より一般住宅でも設置が義務づけられますが、まだまだ設置が進んでいないようです。米国での資料によれば火災報知器が設置されてから住宅火災の死者が大幅に減少したという結果がありました、また死亡原因の殆どが煙に巻かれての窒息死とのことで、煙をいち早く感知することで人命を救うことになるようです。

まだ未設置のお宅はこの際に取り付けてはいかがでしょうか。